

うえばるクリニック 寺 田 幸 平 (3期生)

六川二郎 琉球大学名誉教授が平成22年10月3日、急性骨髄性白血病のためご逝去されました。享年78歳でした。

六川二郎先生は岡山大学医学部在学中にフルブライト留学生に選抜され、卒業と同時に東京米国総合病院のインターンとして医師の第一歩を印されました。その後、米国留学を経て母校の外科学教室に入局されました。同教室教授の陣内傳之助先生の異動に伴い、大阪大学医学部外科学教室第二教室に転任されました。昭和55年、琉球大学保健学部附属病院へ赴任され、医学部脳神経外科学教室を創設され初代教授に就任されました。その後、手術部部長、医学科科長を務められました。

創設当初は医局員が少なく、先生自ら本土在住の沖縄県出身医師に電話をかけ、医局員を増やす努力をされました。昼間は診療等を行い、夜間と休日に研究を行うという毎日を過ごされ、自ら当直もされておりました。琉球大学脳神経外科学教室は、先生の初代教授のみが味わう、苦悩と努力により作られたことを思うと感謝に堪えません。

先生は日本脳神経外科学会、日本脳波・筋電図学会、ペンフィールド記念シンポジウム、日本定位脳手術研究会等数々の評議員などをされておりました。多方面の分野に御精通されておりましたが、てんかんがご専門で、日本てんかん学会会長を務められました。琉球大学附属病院の西原地区への移転の際には、定位脳手術が可能な手術室を作られました。医局員が増え、手術器具も手に入り、ご自身で作られた手術室で念願の手術の準備をされているときの、手術前の緊張の中にもやっとたどり着いたといううれしそうな顔が忘れられません。

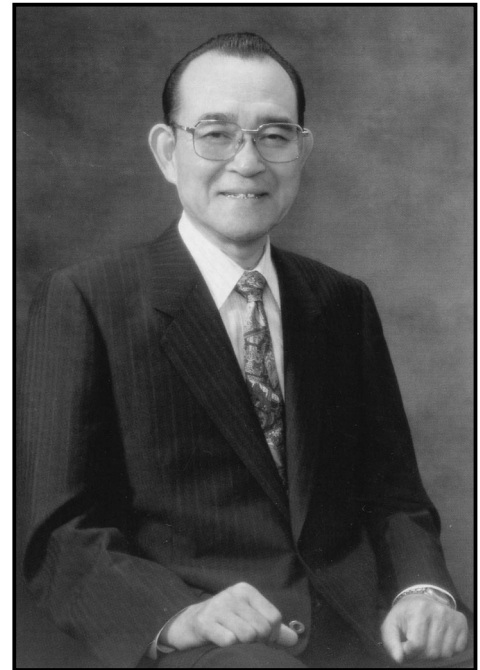
先生は3年8ヶ月間の米国留学で、世界的に著名な先生方とご親交を深められました。私どもが教科書でしか知り得ないDonaghy教授、Yasagil教授等、著名な先生方の研究や手術中の様子、はては日常生活までを教えていただき、雲の上の人々を身近に感じさせていただいたものです。

出身地である呉市での学生時代は、後にプロ野球で活躍された広岡さんと共に野球をされていたそうです。先生は医局員に入局順に背番号を付け、全員が参加するチームを作られました。それまで野球のボールを握ったことのなかった私は、キャッチボールで球をそらせ、先生を球拾いに走らせたものです。診療、研究には厳しい先生でしたが、何度走らせてもいやな顔をされたことは一度もありませんでした。勝敗よりも全員が練習に参加することにこだわっておられました。今になって思うと、先生は野球を通して、医局員が全員で目標に向かって進むことを教えたかったのだと思います。

平成9年3月、琉球大学医学部脳神経外科教授を退官された後は、兵庫県宝塚市に住まれ、平成19年まで医師としての仕事を続けられました。

平成20年5月、私のクリニックの開院式にわざわざお越しいただいたのが沖縄の地を踏まれた最後となり、私たちがお元気な顔を拝見した最後となりました。

六川二郎先生の学会における数々のご業績、琉球大学医学部発展へのご尽力、お人柄に敬意と感謝を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



六川二郎教授 近影

職 歴

- 昭和31年4月 東京米国総合病院にてインターン
- 昭和32年4月 岡山大学医学部外科学第一教室副手
- 昭和32年7月 米国留学 (至昭和36年3月)
- 昭和38年8月 岡山大学助手医学部附属病院
- 昭和39年4月 大阪大学医学部外科学第二教室研究生
- 昭和40年2月 大阪大学医学部助手に採用
- 昭和47年1月 大阪大学医学部講師に昇任
- 昭和55年12月 琉球大学助教授 保健学部附属病院
- 昭和56年4月 琉球大学助教授 医学部附属病院
- 昭和56年12月 琉球大学教授 医学部附属病院
- 昭和59年4月 琉球大学教授 医学部
- 昭和62年4月 琉球大学大学院医学研究科担当
- 平成4年4月 琉球大学附属病院手術部長併任
(至平成6年3月)
- 平成5年11月 琉球大学医学部医学科長を併任
(至平成7年3月)
- 平成9年3月 琉球大学医学部脳神経外科教授退官
- 平成9年4月 琉球大学名誉教授